

自分の欲求を自分で満たす体験活動「めんごキャンプ」を通して

山形県神室少年自然の家

1 はじめに

本所では、子育て支援事業として、子どもたちの発達段階に応じた様々な体験活動を行っている。その中に年中から小学校2年生を対象にした「めんごキャンプ」がある。この事業の特徴は、子どもたちと共にその保護者も参加の対象とし、親子が別々のプログラムに取り組むことである。他の機関でも親子キャンプは実施しているが、年中児から参加できるものは稀であり、本所の大きな特徴であると考えている。ここでは、「めんごキャンプ」を通して、体験活動の意義について考察する。



2 事業のねらい

本事業は、参加者を通年で募集し、年2回実施したものである。

(1) 子どものねらい

1回目 入門編	自然体験活動を通して、自然の良さを感じようとしたり、仲間と関わろうとしたりするきっかけを作る。
2回目 宿泊編	自然の中で、家族と離れて様々な自然体験活動に挑戦し、多少のつらいことでも頑張ろうとする気持ちや自分のことは自分でやろうとする気持ちを育てる。

(2) 保護者のねらい

1, 2回 共通	幼児・児童期における自然体験、生活体験の意義や子育てについて理解を深める。
-------------	---------------------------------------

3 具体的な取り組み

(1) 「日帰り・入門編（1回目）」について【令和5年6月11日（日）】

◇であいの集い	
<子どもプログラム>	<保護者プログラム>
◆アイスブレイク	◆島貫先生による講話
◆野外炊飯（カレーライス）	◆野外炊飯（カレーライス）
◆たき火体験&自由遊び	◆ロープワーク入門
◇体験の共有（挑戦したこと・感動したこと・体験したこと等）	
◇わかれの集い	

実施にあたっては、小田原短期大学仙台通信教育サポートセンター助教の島貫織江先生にご協力いただくとともに、真室川町教育委員会と連携し、山形大学フィールドラーニング「子どもの自然体験活動支援講座」として、16名の大学生にも子どもの支援にあたってもらった。



(2) 「宿泊編 (2回目)」について【令和5年9月2日(土)～3日(日)】

◇であいの集い	
<子どもプログラム> 1日目 ◆新聞紙フリスビー遊び ◆野外炊飯(ピザ) ◆たき火体験 ◆テント泊 2日目 ◆朝の集い ◆野外炊飯(ハムエッグ) ◆川遊び	<保護者プログラム> 1日目 ◆島貫先生による講話 ◆野外炊飯(ピザ) ◆情報交換会 ◆館内泊 2日目 ◆朝の集い ◆野外炊飯(ハムエッグ) ◆木工クラフト
◇体験の共有(挑戦したこと・感動したこと・体験したこと等)	
◇わかれの集い	

前回同様、島貫先生にご協力いただいたが、今回は、フィールドラーニングの大学生の参加はなく、より子どもたちの主体性が求められる機会となった。しかし、前回にも増して、子どもたちの協力しながらたくましく活動する姿が見られ、成長を実感する機会となった。



4 成果(◎)と課題(△)

- ◎ 親子別々のプログラムにすることで、より子どもたちに自覚と責任感が生まれ、主体性を発揮する機会に繋げることができた。
- ◎ 保護者向けに島貫先生の講話を設定したことで、子どもにとっての体験活動の意義を啓発することができた。
- ◎ 年2回の通年で募集したことで、参加者も安心して活動に取り組む様子が見られた。また、子どもたちの成長を実感することができた。
- △ 運営や安全管理の面で、指導や支援する側の人員確保が課題であったり、募集人数が限定されてしまったりした。

5 終わりに

本事業における島貫先生による保護者への講話の中で、体験活動は子どもたちにとって、「欲求が生じる機会」や「欲求を満たすために自分の力を使う機会」はもちろん、「我慢や満たされない自分に向き合う時間を大切にする機会」を与えてくれる大切な場であること、そしてその積み重ねが子どもの将来の自己実現を図る力に繋がっていくことをお話いただいた。まさにこのことこそが体験活動の意義であると考えている。

県の第6次教育振興計画では、目指す人間像として「命をつなぐ人」「学びを生かす人」「地域をつくる人」が掲げられている。そしてその土台となるのが、広い視野と志を持ち、夢や希望の達成のために行動し続ける姿勢である。子どもたちが自分で自分の欲求を満たす体験活動は、まさにその姿勢を育むものであると考えている。今後も、事業の成果と課題を十分に検証し、さらなる充実に取り組んでいく所存である。